

第1回ゲノム医療実現推進協議会資料

疫学研究の質の重要性

平成27年2月13日

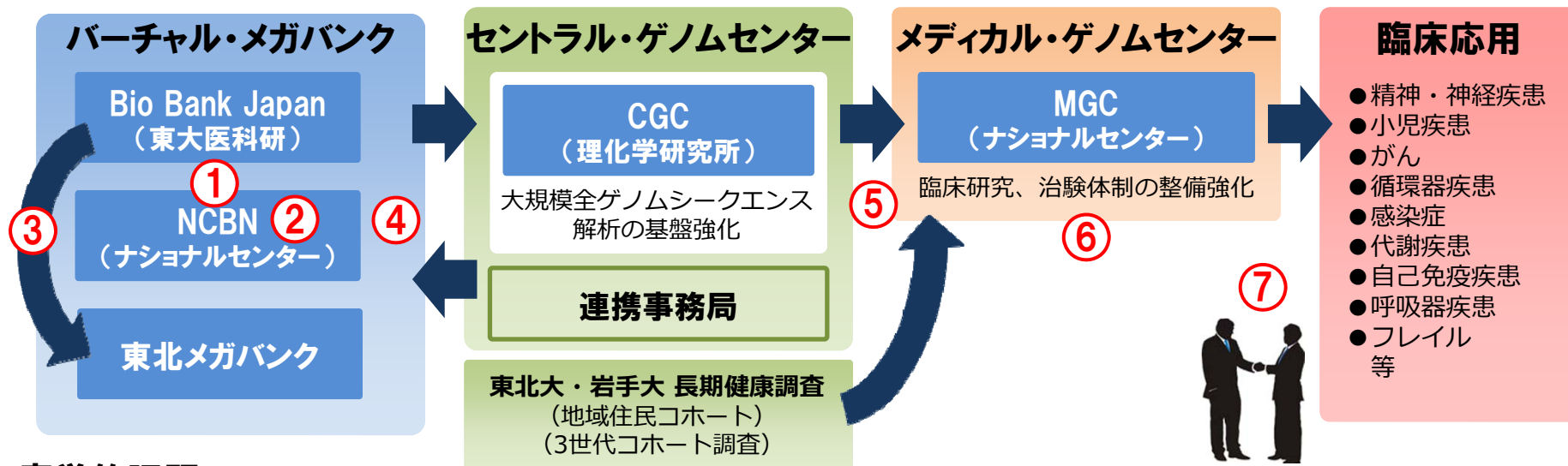
日本疫学理事長

磯 博康

コホート研究・バイオバンクの課題と今後の取り組み： 疫学研究的の質の重要性

厚労省 疾病克服に向けたゲノム医療実現化プロジェクト

- 急速に進むゲノム解析技術の進展を踏まえ、解析基盤の強化を図るとともに、特定疾患に対する臨床応用の推進を図る
- ナショナルセンターを中心に、バーチャルメガバンクの構築、セントラル・ゲノムセンター、メディカル・ゲノムセンターを整備する

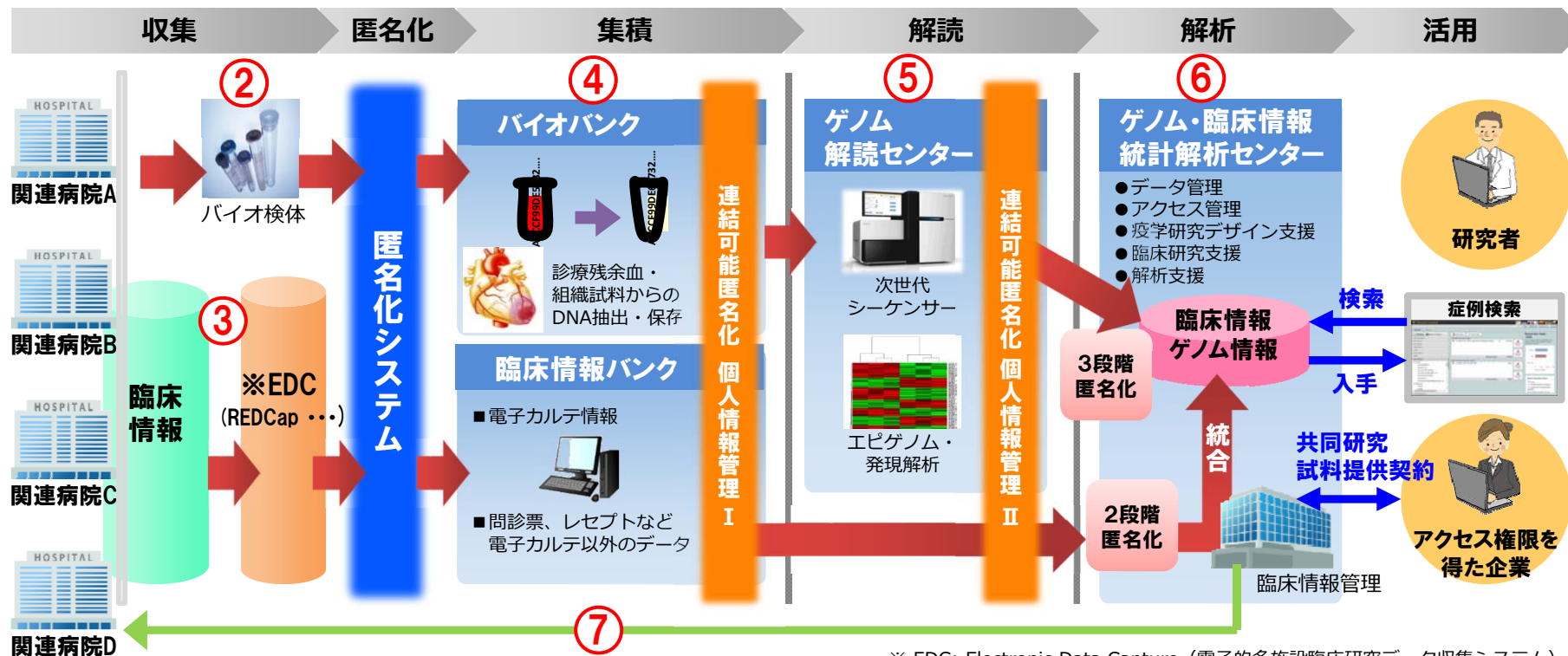


疫学的課題：

- ① 暴露因子に関して、環境・生活・治療等情報の共通化と標準化が重要であるが、現状は未整備
- ② 暴露因子情報の収集・管理に関して、日常診療の場で電子カルテ入力ができるシステムの開発と導入が必須であるが、現状は未整備
- ③ 現状のフレームでは、症例と対照が異なる地域からのため、地域・民族バイアスが発生する可能性があるが、統計学的補正は不可能
- ④ 連携医療機関が少なく、退院後の治療状況、再発、転帰情報の収集が困難
- ⑤ アウトカムとして、感覚器、皮膚、骨軟骨等の難病など超高齢化社会での健康寿命の延伸に関する重要疾患が欠如
- ⑥ 難病も含めた総合的なゲノム医療実現化のためのコホート研究の体制(ゲノム統計解析を含む)が未整備
- ⑦ 疫学的見地から、上記の課題を克服するコホート研究の計画・実施が緊要の課題

総合的なゲノム医療実現化のための臨床研究拠点と地域を結ぶコホート研究（提案）

①ゲノムの収集から活用までのシームレスなコホート研究基盤の構築



- ① 臨床研究中核病院等と関連医療機関との連携による1-2-3次医療圏連結型の大都市地域コホートの構築
- ② 全(多) 診療科からの残余血・組織試料の効率的な収集方法の確立
- ③ 暴露因子情報に関して、日常診療の場で電子カルテ上に入力・管理・利用ができるシステムの開発と導入
- ④ 感覚器、皮膚、骨軟骨等の難病など含めた健康寿命延伸のための重要疾患の資料・試料の集積
- ⑤ ゲノムデータを含む先端的な解読技術の開発と体制（バイオインフォマティクスの配置と育成）の整備
- ⑥ 先端的な生物統計解析技術の開発と体制（生物統計家、IT専門家、疫学専門家の配置と育成）の整備
- ⑦ 関連医療機関との連携、公的資料（レセプト、健診、介護保険、異動・死亡情報）の活用による退院後の治療状況、再発、転帰情報の収集